

☆放課後子ども教室☆

「雪だ！雪、降ってきたよ！！」と子どもたちの心を躍らせる初雪の便りが届きました。車のタイヤ交換の話題を耳にしたり、インフルエンザの予防接種を受けてきたという話を聞いたりすると、とうとう冬がやってくるんだと感じる日々。子どもたちの中にも風邪が少しはやり始めたと聞きました。寒さに体が慣れるまで、体調管理も気を付けなければと思う今日この頃です。

秋も終盤。周りの植物も冬支度をはじめ、木々が落とした葉っぱは子どもたちにとって最高の遊び道具です。カラカラに乾いた落ち葉の上を歩くとサクサクと良い音がします。赤や黄色に色づいた葉っぱを集めて帽子に飾りつけたり、ビニールに貼りつけてドレスにしたり。落ち葉のベッドを作って寝転がると、ふわふわしていて良い気持ち！ついでに葉っぱの布団をかけて潜ってみると、意外と温かいことにも気づきました。また、葉っぱが落ちてしまった木々は少しさびしそうにも見えますが、枝先にとまる鳥やリスなどの姿が見えるようになり、木の上に作られた鳥の巣を発見したり、葉っぱが落ちてしまったからこそ見える景色もありました。少し冬のおいも感じる秋の空気を吸いながら、五感を使って季節を感じられるのがこの時期ならではの外遊びの魅力だと思います。



10月のモノづくりでは柄の部分に木を使ったスプーンづくりを行いました。材は町内で間伐したクワやノリウツギ、ナナカマドを使用。紙やすりで自分の好きな感触になるまで削り、仕上げにクルミを叩いて出た油などを塗ってツヤを出しました。高学年の活動では小刀やのこぎりなど刃物や、インパクトドライバーといった道具を使っての木工作業も行いました。最初は手つきがぎこちない子もいましたが、少しコツを教えるとみんな上手に小刀で木を削ることができるようになりました。火や刃物の扱いは確かに危険も伴います。しかし、危ないからといって触れる機会がなければ、扱い方は身につけません。安全管理に注意を払いながら、子どもたちがケガをせず火や刃物を適切に使えるよう、これからもこうしたプログラムを取り入れていきたいと思っています。



10月の最終週のプログラムでは『ふるさと玉手箱』を作ろうと題した活動を行いました。このふるさと玉手箱とは、自分のまちの“宝物”を探し、遠くの町に暮らす人と互いに玉手箱を交換し合うというプロジェクトです。静岡県で子どもと地域をつなぐ体験活動に取り組んでいるNPO法人『まちなびや』という団体の方と研修をきっかけに知り合い、そのご縁で今回、静岡県の静岡市立江尻小学校の6年生が作る玉手箱と、放課後教室の子どもたちが作る玉手箱を交換することになりました。子どもたちと厚真町の良いところ、静岡に住む小学生に教えてあげたいおもしろい遊びなどを紹介するカードを作ったり、学校周辺にて、贈り物にできそうなキレイな落ち葉や小さな鳥の巣を見つけたりしました。こうして相手に伝えるためには、まず自分がまちのことを知らなくてはなりません。子どもたち自身、自分たちのふるさと・厚真町について考える良いきっかけになったのではないかと思います。静岡からやってくる玉手箱にはどんなものが入っているのか、届く日がとても楽しみです。

